

海津市まちづくり委員会「第8回ふるさと定住促進検討分科会」会議録

開催年月日	平成22年3月26日(金)		
開催場所	海津市役所海津庁舎3階「委員会室」		
分科会委員定数	14名		
開 会	午後1時30分		
閉 会	午後3時30分		
出席者	○分科会委員		
	岐阜経済大学経済学部教授	池 永 輝 之	
	公募市民	本 多 高 洲	
	公募市民	藤 田 繁 己	
	公募市民	堀 田 義 郎	
	公募市民	坂 本 由 貴	
	公募市民	伊 藤 祥 子	
	公募市民	柴 田 夕 子	
	女性人材リスト登録者	安 部 晶 子	
	女性人材リスト登録者	石 川 晴 代	
	高須生活学校代表	加 藤 佳 余 子	
	○事務局 企画政策課 課長		
		木 村 元 康	
		後 藤 政 樹	
		毛 利 卓 司	
欠 席 者	公募市民	村 上 碩 也	
	公募市民	古 川 義 弘	
	公募市民	加 々 本 紘 一	
	海津市自治連合会代表	諏 訪 薫	

会 議 次 第

1. 開会
2. あいさつ
3. 重要課題の決定について
 - ・重要課題（検討事項）の事務局提案について
『コミュニティ活動を中心とした“まちづくりビジョン”の策定』
『若者に的を絞った戦略的な移住・定住対策』
4. 今後の検討方法等について
 - ・検討方法について
 - ・検討スケジュールの確認
 - ・先進地視察、先進地事例等について
 - ・報告書について
5. その他
6. 閉会

会議録（要約）

事務局	<p>ただいまから海津市まちづくり委員会「ふるさと定住促進検討分科会」第8回目の会議を開催させていただきます。</p> <p>はじめに藤田会長よりあいさつをお願いします。</p>
会 長	<p>（あいさつ）</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして事務局からあいさつ申し上げます。</p> <p>（課長あいさつ）</p> <p>さて、今回は重要課題の決定を行いたいと思います。</p> <p>前回の分科会時、3項目について事務局案として重要課題を挙げさせていただき、みなさんからご意見をいただきました。おおむね、了解していただけたのかと思っておりますが、「農業を軸とした地域内循環」について、農業が果たして若年層の流出抑止につながるのか、といったご意見がありました。また、若年層をターゲットにした具体的な施策を検討することは必要だとのご意見もありましたので、提案を『コミュニティ活動を中心とした“まちづくりビジョン”の策定』と『若者に的を絞った戦略的な移住・定住対策』の2項目にしてみました。</p> <p>コミュニティ活動に関しては、市民が快適な地域生活をおくれるよう、協働によるまちづくりの仕組みを考えてみてはどうか、また戦略的な移住・定住対策については、若年世代に直接支援する制度的なこと、例えば結婚祝い金とか定住促進奨励金であるとか、そういった部分も検討の対象としたいとのことでしたので、今回お出しした重要課題の中に入れてさせていただきました。</p>
A委員	<p>コミュニティ活動を中心とした“まちづくりビジョン”の策定について質問ですが、社会福祉協議会が実施しようとしている学区単位のコミュニティづくりのイメージとは違うのですか。</p>
事務局	<p>そういったことも含めて、これから考えましようということです。地域活動を活性化する、行政として支援する、支援については特段制度がないのでそういったことを考えていってはどうかということです。近年、協働という言葉が多用されています。海津市においても協働社会の実現を目指しているところですが、具体的なイメージがない、協働の担い手がない、経済支援が受けられない、中間支援的な組織がないなど、考えていかなければならないことが多くあります。協働社会の実現に向けての仕組みを考えていくことが、この案の意図するものです。</p>
B委員	<p>地域活動を支援するというのは、海津市のまちづくりに関わる団体のお世話を企画政策課でやっていただけるのですか。</p>
事務局	<p>企画政策課は政策部分を担っております。提案の中でいろんな分野の話が出てくると思います。例えば住宅の関連の話であれば住宅関連の担当課、文化歴史であれば生涯学習課といったように分野ごとに貼り付けていくというような形になります。</p>

	<p>再度整理させていただきますが、コミュニティ活動を中心とした“まちづくりビジョン”の策定についてですが、これは協働社会の実現のためにすべきことをまとめるもので、市民と行政が地域の課題を共有しながら、それぞれができることを行い、一緒になって課題を解決していこうというものです。現在、協働を進めるための体制（人・金・支援する者など）が十分に整備されていませんので、暮らしやすいまちづくりとは何か、どのような方法で、どのような仕組みがあれば実現できるのか、そういったことを議論していただき提案書に載せていきたいと考えています。</p> <p>また、若者に的を絞った戦略的な移住・定住対策については、より具体的で、より魅力がある若者支援策を議論したいとの声がありましたので課題として挙げさせていただきました。分科会当初、まちづくり委員会は「地域の問題を協働により解決できること」を検討し、提案するとしていたことから、とかく行政への要望になりがちな事柄については検討しないとしておりました。しかしながら地域コミュニティや郷土愛の醸成などには必要ではあるが、もっと具体的なものがないとインパクトが弱いのではないかとのご意見もありました。そういったご意向を踏まえ、戦略的な移住・定住対策に関しては行政施策中心の議論になるかと思いますが、検討自体はして欲しいとのことでしたので挙げさせていただきました。</p>
C委員	<p>まちをPRしていこうという意味ではないのですよね。また、海津市の人がまちの事を良く理解しないと、そこから始めないといけないような気がします。</p>
事務局	<p>外へのPRはもちろん必要ですが、要は市外へ出ていくということを止めるための方策を提案に入れていきたいと思っています。</p> <p>個々の対策については課題を決めさせていただいてから入っていきたいと思います。</p> <p>まず、重要課題につきまして、事務局で挙げさせていただいた2案でよろしいでしょうか。</p>
D委員	<p>コミュニティとありますが、自治会くらいしか思いつきませんが、こういったものを指しているのですか。</p>
事務局	<p>色々なものを総称して言っております。自治会もそうですし、学校や保護者会、会社や市民活動団体など、あらゆるものを考えております。</p>
池永教授	<p>まちづくりビジョンを策定しようということですが、こういったまちづくりをイメージするのかということになると思います。一般論でいえば誇りと愛着を持てる海津を作ろうということになると思います。そのためには、市民と行政が話し合う場がつけられる必要があるのではないか、それを作り上げようじゃないかということになると思いますが、まちづくりビジョンの策定によって、住民の意見を反映させて実現する手立てを作っていく提案になるだろうと思います。</p> <p>また、3町が合併してそれぞれの町が持っている誇りを、新しいまち海津市の市民にフィードバックされるようなことだろうと思いますし、そのためにまちづくりの委員会とか協議会とかを機能させなければなりません。そうすると行政は相当覚悟をしてもらわないといけない。今までのように議員を通じて意見が出てきたから実現しましょうでは、こういったことはできないと思います。本当に市民とやっていくのであれば、行政が発想転換する必要がありますし、まず汗をかくのも行政だと思います。</p> <p>地域内にあるNPOの横の連絡、海津の中で意欲的に取り組んでいる団体をどうまとめていくか、また育成や助成なんかも考えていかないといけない。</p> <p>要は、市民の意見をどう吸収するか、ということをよく考えないと、まちづくりビジョン</p>

	<p>といっても言葉だけで終わってしまうのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。 まちづくりビジョンとっておりましたが、協働のまちづくりのための指針と言ったほうが分かりやすいかもしれません。協働社会の実現のためにどういった仕組みや支援が必要なのか、そういったことをまとめていくイメージだと考えています。</p>
E委員	<p>指針と言われましたが第1回目の分科会で、岐阜県の調査結果が出されました。この調査において課題や指針は出ています。この7カ月はなんだったのでしょうか。結果は出ているじゃないですか。</p>
D委員	<p>現状認識はそういうことで、これからそれをどうするか、どう提言するかということをお皆さんで考えましょうということなので、今までの話し合いはそれはそれで良かったのではないですか。</p>
事務局	<p>言われる意味は分かります。岐阜県の調査結果は現在の海津市の流出状況についてかなり核をついた結果であると思います。それは岐阜県の職員が調査し分析したものですが、そういった事をデータで見て考えるということよりも、委員さん自身が要因や問題を考え、様々な情報を共有しながら解決案を出していく、こういった作業が必要であると考えています。確かに、調査の結果として出されています（非公式）が、皆さんで1からやってきたことは無駄なことではないと考えます。なお、次回以降は対策の具体的な話になってきますのでよろしくお願いします。</p>
F委員	<p>課題についてですが、まず若者に的を絞った戦略的な移住・定住対策を考えながら、それにはこういう課題が出るから、それをまちづくりビジョンに反映させていくと考えたほうが分かりやすいのですが。</p>
事務局	<p>まちづくりという言葉に対して、みなさんと事務局とに認識の違いがあるように感じました。こちらから提案させていただいた「コミュニティ活動を中心としたまちづくりビジョン」というのは、まちづくりの進め方・在り方です。コミュニティ活動や地域活動をしやすく、盛り上げるために必要な仕組み・環境を考えるのがビジョンです。一方、戦略的な対策に関しては、具体的なものになります。例えば結婚のお祝い金を出しましょうとか子供手当を上乗せしましょうとか定住奨励金を出しましょうとか、そういった考え方です。</p>
D委員	<p>課題は1つでいいんじゃないですか。対策をいくつかあげて、その中の1つに若者に的を絞った・・・というものがある、こう考えたほうが分かりやすいと思います。</p>
事務局	<p>報告書のまとめかたをイメージしながら課題を出させていただきました。それが分かりにくいのご意見でしたので、課題を整理させていただきたいと思います。 また、今後の検討方法につきましても、先ほど柴田委員さんが言われた、具体的な個別対策を議論していくことにさせていただきます。以前みなさんに課題シートを出していただきましたが、それを元に分野ごとに議論をしていただき、事務局において意見を整理しながら報告書に落としていくということですのでよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>

時間もかなり経過してしまいましたので、次の協議事項に進ませていただきます。今後の検討方法についてですが、先ほどの話のとおり課題シートに基づいてグループワークにより議論していただくということをお願いします。

次に先進地視察、先進地事例等についてですが、参考として、恵那市を紹介させていただきます。恵那市は、移住・定住対策として定住奨励金や固定資産税の減免、空き家事業などを行っています。また、合併を機に地域自治区を設定し、地域毎の活動が盛んであり、協働事業のお手本ともなるべき自治体であると思います。もし、みなさんが話を聞いてみたい、現地を見てみたいということであれば恵那市で視察研修を行いたいと思いますがいかがでしょうか。

(異議なし)

恵那市には、打診をしてありますので視察研修は可能かと思いますが、現地まで行く必要性が少ないようであれば、恵那市の職員さんをお招きするか、事務局において詳細を説明させていただきたいと思います。ひとまず、事務局において先方と協議させていただきますので、次回にでもそのご報告をさせていただきたいと思います。

以上をもちまして海津市まちづくり委員会「第8回ふるさと定住促進検討分科会」を終了いたします。